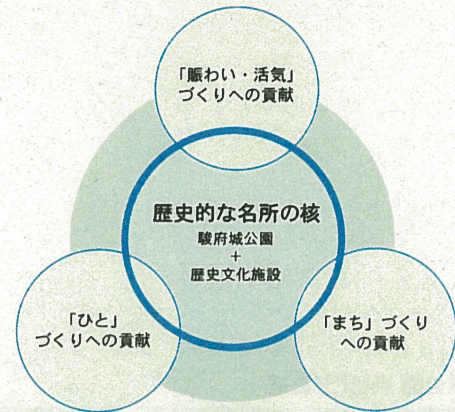


I 基本方針

■計画の位置づけ [本編2ページ]

歴史文化のまちづくり

- 「世界に輝く静岡」の実現に向けて歴史的な名所の核となる(第3次静岡市総合計画)
- 「まち」の存在感を高め、交流人口を増やす「ひと」を育て、「まち」を活性化(静岡市総合戦略)



■基本理念 [本編3ページ]

歴史文化から静岡の未来をつくる。 ～静岡の過去を学び、今を知る。そして、未来を考える。～

静岡市の豊かな歴史と文化を活かし、「世界に輝く静岡」を実現していく拠点となるのが、この歴史文化施設です。静岡市ならではの歴史文化遺産の価値と魅力を発信する活動で、地域に賑わいと豊かさを創出し、静岡市の発展を牽引していきます。

■基本方針 [本編4ページ]

- ①静岡市の歴史的・文化的資源の展示・保存及び学術研究の拠点をめざす
- ②歴史研究のためのネットワークを構築し、情報の交流と蓄積を進める
- ③自ら学ぶ市民を支える生涯学習の拠点をめざす
- ④学校教育との連携を深め、郷土学習の拠点をめざす
- ⑤「歴史文化のまち静岡」の情報を発信し、観光の核となることをめざす
- ⑥文化活動を通じて地域の産業の活性化をめざす
- ⑦市民との協働により、市民とともに進化し続ける施設をめざす

■歴史文化施設の役割 [本編7ページ]

①「駿府」の歴史を語る

駿府城下町をはじめ、清水湊や各宿場など、周辺地域を含めた「駿府」の歴史を語る施設として、駿府在城中の「大御所家康公」をクローズアップし、新たな都市イメージ「大御所家康公と駿府」を確立します。

②「学び」のコーディネート

市民が専門家や研究者とともに地域を学び合う拠点になるとともに、学校教育との連携により、将来の郷土を担う人材の育成をサポートします。加えて、市内各施設の「つなぎ役」となり、様々な分野の専門家が関わり合う多面的な「学び」の場を創出します。

③集客の核となり、地域に誘う

地域資源を活用し、本市のPR力を高め、集客を図ることで、歴史観光を推進します。そして、多くの人々が市内各地域を訪れ、地域の人たちと交流する機会を創出することにより、地域活性化の一翼を担います。

■歴史文化施設の機能 [本編13ページ]

博物館機能

- 収集・保存
- 調査・研究
- 展示・公開
- 教育・普及

ビジターセンター機能

- 集客創造
- 回遊促進

文化力から経済力へ

II 事業計画

1 事業計画の基本的な考え方 [本編17ページ]

歴史探求

歴史的・文化的資源や魅力の収集、研究、展示

地域学習

学校、地域、他の関係施設との調査、教育活動等の連携

観光交流

施設への集客を高め、市内回遊の動機づけを図る

各活動の連携と循環

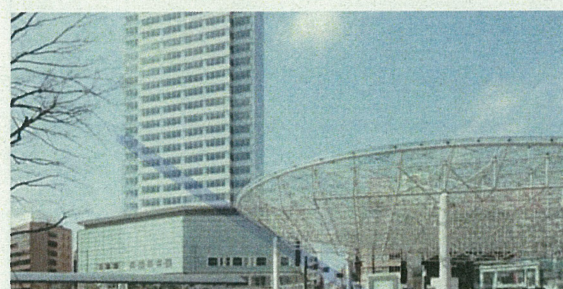
まちからつながる一施設体験ストーリー

『現在の静岡の町と人』が、『大御所時代の町と人』とつながる、『歴史』という時間の旅。

(仮称)静岡市歴史文化施設までの静岡のまち歩きが、現代から過去へのタイムトリップにつながり、展示室がその目的地となります。

発展する静岡の街並みを通り抜けると眼前に現れる、約400年前の創建時の姿を髣髴とさせる駿府城東御門・巽櫓。その櫓を視界に捉えながら、スロープを上り展示室へと向かう——。この道のりは、まさに現在から過去へのタイムトンネルとなり、来館者を「歴史」の旅へ導きます。その目的地となる展示室は、400年前の家康と出会う場となります。

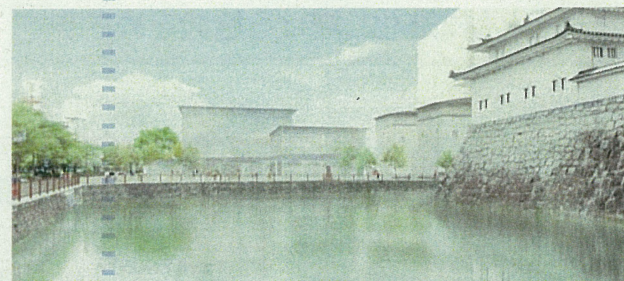
(仮称)静岡市歴史文化施設



静岡駅前



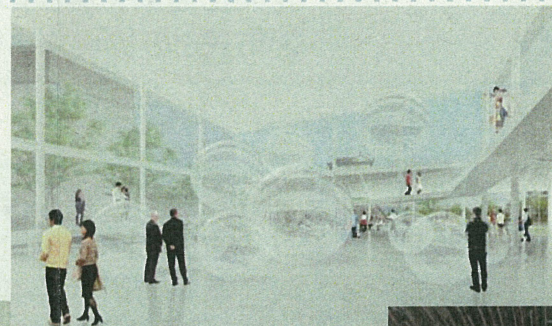
中心市街地
(城下町)



(仮称)静岡市歴史文化施設



歴史のタイムトンネル空間
(建築設計プロポーザル提案書より)



歴史体感展示/
歴史観光
ガイドンスエリア

展示



歴史のタイムトリップ空間
展示の考え方

駿府城公園 東御門・巽櫓



静岡浅間神社



臨済寺



現在の静岡

タイムトンネル空間

大御所時代の静岡

近現代の静岡

現在の静岡

現在：静岡中心市街地

雁行する町割りが城下町を余韻を感じさせ、人が集まりにぎわう静岡市の中心。

現在：(仮称)静岡市歴史文化施設

家康と静岡の歴史の世界に導く場

大御所時代：世界が注目した家康の居城駿府。

家康に拝謁するため訪れた人々で賑わう駿府

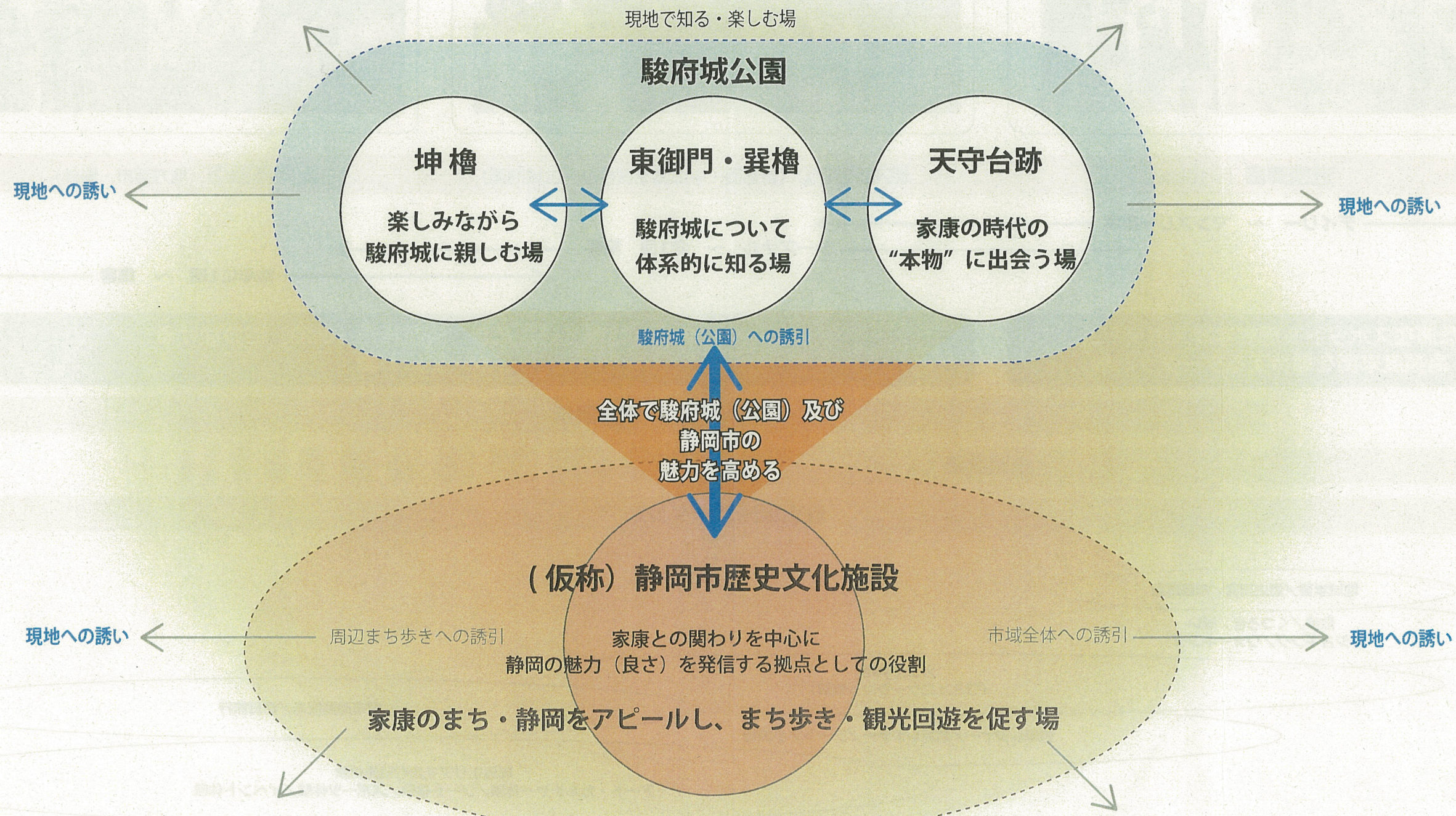
現在：駿府城

家康と静岡の
現在と過去を体感

歴史文化施設と駿府城公園との役割分担と連携

「(仮称) 静岡市歴史文化施設」では、「家康と駿府 (静岡)」との深いつながりを示すことで「大御所家康公のまち・駿府 (静岡)」としてのイメージを確立するとともに、駿府 (静岡) の歴史の全体像を通して、静岡の魅力を発信し、まち歩きや市内各所への回遊 (観光交流) を促すことを目的としています。

その第一歩として、家康と駿府の関わりを象徴する駿府城 (駿府城公園) 内施設である東御門・巽櫓や坤櫓、発掘調査により家康時代の石垣が発見された天守台跡等、それぞれの特性を活かしながら、お互いに相乗効果を発揮し、駿府城公園そのもののポテンシャル (魅力) を高め、加えて「(仮称) 静岡市歴史文化施設」の展示と一体化することで、駿府城公園はじめ静岡市域全体の魅力向上につなげていきます。



ターゲット像

静岡に暮らす人

- 静岡市民（大人・学生・シニア・ファミリー・）
・中心市街地へ買い物等で訪れた人（市内・市外）
- 市内及び近隣地域の小中学生
・日本の歴史を学び始める小学6年生
・社会科や総合的な学習の時間で、今川氏、徳川氏を学ぶ
中学1、2年生



静岡に観光目的で訪れた人①

- 首都圏・中部圏在住の大人～アクティブシニア
・歴史文化に興味関心が高い層
・その他の観光目的等で静岡県を訪れた人

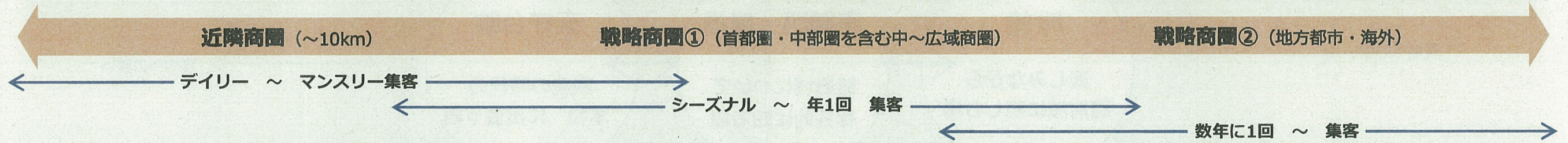


静岡に観光目的で訪れた人②

- 国内地方からの観光客
・歴史文化に興味関心が高い層
・その他の観光目的等で静岡県を訪れた人
- 外国人観光客
・歴史文化に興味関心が高い層
・その他の観光目的等で静岡県を訪れた人



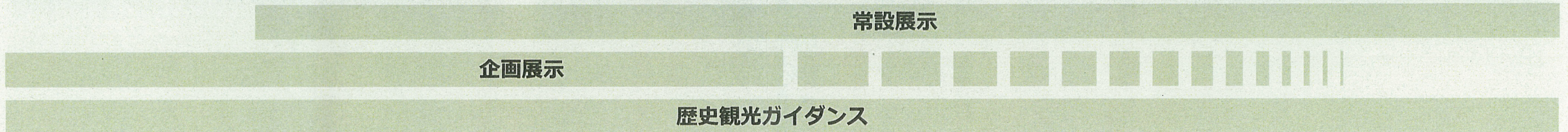
集客の考え方



訴求イメージ

身近な滞在スポット&歴史学習スポットとして
高頻度来街を期待するターゲット層

わざわざ来ていただき、滞在観光（宿泊）につなげる
ターゲット層



ライフスタイル・イメージ

